東京学芸大学附属世田谷中学校公開授業研究会 公開授業 第３学年 社会科科学習指導案	授業者	金城　和秀
	授業学級	３年Ａ組（男子１８名, 女子１６名）
授業テーマ	ソーシャル＆エモーショナルラーニング（SEL）の視点を取り入れた社会科授業の実践	

１．本時の目標

○　日本の少子化の問題について理解する。

○　「最適解」と「納得解」の間にあるものを考え、現代社会における新たな見方・考え方として概念化する。

○　誰もが幸せを感じる社会を考えるために、これから学習する公民的分野の内容に対して興味を持つ。

２．本時の位置づけ

本単元は、中学校学習指導要領社会科公民的分野の大項目Ａ私たちと現代社会、中項目（１）私たちが生きる現代社会の文化の特色に基づくものである。単元指導計画は以下のとおりである。

時	学習内容	指導上の留意点
本時	○現代社会の特色〈少子化〉 日本の少子化問題を様々な立場から考え、どのような社会が良いか考えよう。 ～少子化対策を例に～	・ロールプレイを通して、少子化問題について様々な立場の人の想いがあることを理解する。 ・「誰もが幸せを感じる社会」にするためにどのようなことを学びたいか考えさせ、これから学習する公民的分野の動機づけとする。
2	○現代社会の特色〈情報化〉 IT は少子高齢化の問題を解決する要因となるのか。	・少子高齢化社会によって引き起こされる問題について、解決してくれそうな IT 技術を調べ、グループで発表しあう ・情報化の進展を批判的に捉え、今後どのようにITやAIと付き合えばいいのか考える。
3	○現代社会の特色〈グローバル化〉 少子高齢化による労働人口の減少に対し、外国人労働者を増やすべきなのか。	・日本は今後、外国人労働者受け入れるべきかのディスカッションを行う。 ・宗教や文化の側面からも考えさせる。
4	○伝統文化の継承と創造 少子高齢化の問題から、日本の家族のあり方はどうあるべきか。	・外国の少子化対策の事例を調べる。 ・日本の少子化の問題において、外国の事例が参考になるか考える。 ・多様化する社会の中で、これからの日本の家族の在り方を考える。
5	○単元のまとめ	・単元の学習内容から、「誰もが幸せを感じる社会」とはどのようなものか、そこにはどのようなことが必要で、そのためにこの先何を学びたいかをまとめる。

３．本時の概要

（１）ＳＥＬの視点

SEL の視点として、ロールプレイによって、様々な人々の感情を意識する「他者への気づき」（他者を理解する能力）を生徒に意識させる。

（２）情報活用能力との関わり

社会科固有の情報活用能力と考えた「情報編集力」を育成するために、SEL の視点である「他者への気づき」(他者を理解する能力) を高めることを意識した活動的な授業を設定した。

４．本時の展開

主な学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
〈１．導入〉 (10分) 〇日本の少子化について知る。 〇少子化が進むとどうなるか考える。 〇政府が打ち出した「異次元の少子化対策」の内容を理解する。	・新聞資料を活用し、理解させる。 ・知っている内容を発言させるとともに、少子化による懸念事項を補足する。 ・政府が打ち出した「異次元の少子化対策」についての資料をロイロノートで配布する。
〈２．展開〉（１） (15分) 〇自分たち中学生にとって、この少子化問題、政府の異次元の少子化対策はどのように感じるか、話し合う。 〇政府の少子化政策が様々な人にどのように映るかロールプレイを行う。 ※ひとグループだけ、クラスの前で披露させる。	・４人ひとグループで話し合わせる。 ・ロールプレイ「政府の異次元の少子化対策は私にとってどう感じる？」を行うための役割分担を行う。 〈役割設定〉 ①非正規雇用で結婚できなかった人 ②子どもを持たないと選択した夫婦 ③育児中の家庭 ④男性の育児休業に力を入れる企業 ・配布された資料から、その役割の心情を想定してロールプレイを行うように指示する。
〈２.展開〉(２) (15分) 〇人々がどんな子育て政策を望んでいるのか理解する。 〇少子化対策の最適解と納得解を考えさせる。 〇Bing AI を活用し、「子育て政策の最適解」を調べる。 〇今までの内容を振り返り、子育て政策における納得解を考える。 〇少子化対策・子育て政策は必要だが、子どもを持つ、持たないにかかわらず、誰もが幸せを感じられる社会を構築することが大切であることを理解する。	・民間団体が行ったアンケート結果を活用する。 ・何人かに発言させる。 ・最適解と納得解を考えさせ、最適解と納得解の間にあるのは人々の「感情」であり、それを考えることの大切さ、そのことが「共生」につながっていくことを補足する。
〈３.まとめ〉 (10分) 〇誰もが幸せを感じる社会とはどのようなものかを考える。	・誰もが幸せを感じる社会を達成するために必要なことを考えさせ、そのためにはどのようなことを勉強したいかを考える。 ・考えた内容がこれから公民的分野で学ぶ内容であることを説明し、これからの公民学習の動機づけとする。